○ ○ ○ ○ ○

**地域医会だより**

# 県央皮膚科医の会

綾瀬・海老名・座間・大和の４市の皮膚科医を主体に、講演会形式で不定期に開いている会ですが、平成21年度はいくつかの事情が重なって開くことができませんでした。その反省をしつつ早速に、22年度の行事を組むことになりました。この５月に、国立病院機構相模原病院の朝比奈昭彦先生に「新しい乾癬治療の期待」というタイトルで講演をお願いすることになっています。生物学的製剤の実用に関して、具体的な勉強ができることでしょう。

いつも、できるだけ多くの先生方に参加してもらえるような講演会を企画したいと考えてはいるものの、悩ましいことも少なくないというのが実情です。

（文責：米元康藏）

○ ○ ○ ○ ○

**地域医会だより**

# 横浜市皮膚科医会

## 平成21年度の報告

毛利忍会長の下での横浜市皮膚科医会も２年目に入り、事業内容もさらに充実してきました。

１）まず、例会については下記の３回の例会が開催されました。

・**第122回例会**：平成21年４月４日（土）
場所：関内新井ホール
共催：インテンディス㈱

特別講演は、埼玉医科大学皮膚科、土田哲也教授の「ダーモスコピーのみかた　基礎から応用まで」で、土田教授のご講演は大変具体的かつ平易な言葉のため判りやすく、ダーモスコピーの更なる理解が得られた事と思います。新企画プログラムからはクロタミトン含有軟膏の副作用、そして漢方による副作用、採血針による末梢神経障害について解説が行われました。また、本例会からの新しい企画として、蒲原先生による皮膚科専門医試験の概説も行われました。

・**第123回例会**：平成21年７月５日（日）
場所：関内新井ホール

神奈川県皮膚科医会（第130回例会）との共催で行われた。担当幹事の杉田泰之先生による「皮膚と遺伝子、その夢」がテーマで、ご講演は大阪大学大学院医学系研究科遺伝子治療学准教授　玉井克人先生と、弘前大学大学院医学研究科皮膚科学講座教授　澤村大輔先生でした。

・**第124回例会**：平成21年10月31日（土）
場所：関内新井ホール
共催：サノフィ・アベンティス㈱

特別講演は、順天堂大学医学部附属練馬病院小児科、新島新一教授による「皮膚科医に役立つ小児疾患のみかた」で、モロー反射、引き起こし反応などの新生児の神経学的異常の早期発見に有用な検査、新生児期から歩行時期までの発達行程などの皮膚科の講演会ではなかなか伺えないお話と、抗ヒスタミン薬と痙攣の関係についてのご講演でした。

その他、新企画プログラムより、デモデックスについて、UVAとUVBを間違えての照射、抗真菌剤内服時のジヒドロピリジン系Ca拮抗剤との併用による副作用、そして今年の皮膚科専門医試験の概説も行われました。

２）例会以外に以下の３つの会の後援、主催を行いました。

・**第２回横浜皮膚病免疫治療研究会**：平成21年４月２日（木）
場所：崎陽軒
共催：ノバルティスファーマ㈱

特別講演は東京慈恵会医科大学皮膚科学教授、中川秀己先生による「アトピー性皮膚炎治療の最前線」で、アトピー性皮膚炎の治療として今後、使用が予想される免疫抑制薬内服治療についてのお話でした。

・**横浜市皮膚科医会学術講演会**：　平成21年7月16日（木）
場所：横浜エクセルホテル東急
共催：日本ベーリンガーインゲルハイム㈱

特別講演は東京大学大学院医学系研究科皮膚科学教授、佐藤伸一先生による「膠原病の皮疹のみかた」でした。教授就任直後のご講演となり、大変ロジカルなまとまったお話を伺いました。これを機に、佐藤教授には、２～３年に１回程度で、その時期でのトピックスや取り上げたい話題などについてのご講演をお願いしようという案が出ました。

・**横浜市皮膚科医会主催市民公開講座**：平成22年３月14日（日）
場所：ワークピア横浜
共催：㈱ポーラファルマ

講座は、神奈川区の野村有子先生による「肌のトラブルを解消するコツ～アトピー性皮膚炎を中心に～」の講演と、横浜市皮膚科医会会員（毛利忍、高橋泰英、杉田泰之、野村有子、渡辺知雄）による「肌についての相談コーナー」と共催の㈱ポーラファルマによる「肌に優しい化粧品コーナー、ワンポイントアドバイス」から成り、78名の参加者でした。この市民公開講座は来年度も継続が予定されています。

３）横浜市医師会の学術活動

・**第17回横浜臨床医学会集談会**：平成21年12月５日（土）
場所：ホテルキャメロットジャパン
座長　山川皮ふ科　山川有子先生
演者　あざみ野皮膚科　池田祐輔先生
演題　診断が容易でなかった皮膚悪性腫瘍の４例

・**TVK放映**
①平成21年５月22日、５月29日
タイトル：単純ヘルペス　帯状疱疹
出演　：渡辺皮膚科クリニック　渡辺知雄

②平成21年11月27日、12月４日

タイトル：金属によるかぶれ

出演　　：大沼皮フ科　大沼すみ先生

・**がんに関する医師研修事業**：平成22年２月17日（水）

場所：横浜市社会福祉センター

座長　毛利　忍

演者　横浜市立大学大学院研究科環境免疫病態皮膚科学准教授　和田秀文先生

演題　皮膚悪性腫瘍の治療は今、何処まで治る?

研修会開催の周知徹底が十分行われなかったため、出席者が19名と少なく、問題を残しました。講演は大変有意義でまとまったお話で、出席できなかった会員の先生方にも是非、聞いてほしく、再度ご講演の企画を設けたいと思われるほどでした。

４）２回の座談会が企画されました。

・**横浜市医師会報４月号798号、各科医会座談会「横浜市皮膚科医会」に収載**

出席者：加藤安彦、毛利忍、鎌田英明、浅井俊弥、渡辺知雄

司会　：藤田敬一

・**皮膚病診療　「横浜市皮膚科医会から」Vol31,No10,p1221に 収載**

出席者：毛利忍、鎌田英明、杉田泰之、山川有子、渡辺知雄

（文責：渡辺知雄）

○ ○ ○ ○ ○

**地域医会だより**

# 鎌倉市皮膚科医会

平成22年３月末の時点で８人の皮膚科医（女性６人、男性２人）で構成。昨年度の活動はなし。

（文責：原　尚道）

○　○　○　○　○
**地域医会だより**

# 藤沢市皮膚科医会

●平成21年3月12日木曜：19：30～
ザ・ホテル・オブ・ラファエロ湘南
講師：蒲原　毅 先生（横浜市立大学附属市民総合医療センター）
演題：「皮膚感染症～最近の話題～」

●平成21年7月22日水曜：19：30～
ザ・ホテル・オブ・ラファエロ湘南
講師：五十嵐敦之 先生（NTT東日本関東病院　皮膚科部長）
演題：「抗ヒスタミン薬の話」

●平成21年11月11日水曜：19：30～
ザ・ホテル・オブ・ラファエロ湘南
講師：乾　重樹 先生（大阪大学　毛髪再生医学講座准教授）
演題：「治療に難渋する円形脱毛症に対する新しい治療と工夫：ステロイドパルス療法と局所免疫療法における塩酸フェキソフェナジンの併用について」

●平成22年3月17日水曜：19：30～
ザ・ホテル・オブ・ラファエロ湘南
講師：清　佳浩 先生（帝京大学医学部附属溝口病院　皮膚科教授）
演題：「白癬～完治を目指して～」

（文責：小林誠一郎）

○ ○ ○ ○ ○

**地域医会だより**

# 川崎市皮膚科医会

## 第７回川崎市皮膚科医会定時総会・第10回川崎市皮膚科医会例会学術講演会

平成21年10月７日にホテル精養軒（武蔵小杉）にて第７回川崎市皮膚科医会定時総会・第10回川崎市皮膚科医会例会学術講演会を開催しました。総会は第５号議案まで円滑に承認され無事終了しました。

講演会は小川純己先生（日本鋼管病院皮膚科部長）の座長で帝京大学医学部附属溝口病院皮膚科教授の清佳浩先生に「フケ症ー脂漏性湿疹の原因は、癜風菌？」という演題でご講演いただきました。途中、川崎市の皮膚科勉強会の恒例である、スライドの試問まで飛び出しましたが、まだ？が取れないのが不思議なくらい説得力のあるお話でした。

（文責：川崎市皮膚科医会副会長　井上奈津彦）

○ ○ ○ ○ ○

**地域医会だより**

# 三浦半島皮膚科懇話会
# 横須賀市医師会皮膚科部会

## 第41回三浦半島皮膚科懇話会
## 第24回横須賀市医師会皮膚科部会学術講演会

### 「アトピー性皮膚炎標準治療の普及を目指して」
**ーアトピー性皮膚炎診療ガイドライン2009よりー**

演者：東京逓信病院　皮膚科部長　江藤隆史

座長：金丸皮膚科　院長　金丸哲山

2004年のクリスマスシーズンにアトピー性皮膚炎の２人の子どもを抱えた４人家族が、症状が良くならず、治療にお金がかかるため一家心中してしまった記事が、ある女性週刊誌に掲載されました。「標準治療でそんなに支出が増えるわけはありませんし、標準治療をしていれば夜中に泣き叫ぶほど、子どもたちを苦しめることは無かったはずなのですが」と、取材に応じた私のコメントは、全く削除され、「アトピーは怖い」、「ステロイドは怖い」というような内容の記事になっているのを見て、激昂したのが５年前でした。標準治療の普及の必要性を痛感した一こまでした。

一家心中しなければならないほどつらい病気にしてしまったのは、だれなのでしょうか？　われわれ皮膚科医、そしてアレルギー科専門医は、その責任を重く受け止めねばならないと考えています。脱ステロイド、アトピービジネス、過剰な食事制限など、標準治療の中心になるステロイド外用療法を極端に避けようとする雰囲気は、まだまだ根強く残っており、私の外来にもその様な迷える患者さんがたくさん受診してくださっています。週１回、私は「アトピー教室」という患者様向けの勉強会を開催して、標準治療の重要性、安全性につ

いて、熱く語って理解を深めていただけるよう頑張っています。

ここでは、2009年に改訂された日本皮膚科学会のアトピー性皮膚炎診療ガイドラインの内容を概説しながら、私がアトピー性皮膚炎治療において問題点と考えてきたいくつかのポイントを取り上げ、アトピー性皮膚炎の標準治療の普及における我々の今後の課題を述べることにしてみます。

○　○　○　○　○

**地域医会だより**

# 小田原市皮膚科医会

平成21年度は、学術講演会を下記の２回開催いたしました。

**●平成21年6月29日（月）19：00～20：00　報徳二宮神社　報徳会館**

【乾癬治療2009～そのゴールをめざして～】

講師：東海大学　医学部専門診療学系皮膚科学教授　小澤　明先生

座長：日下部医院　　日下部　芳志先生

共催：協和発酵キリン株式会社

**●平成21年9月7日（月）18：45～20：00　報徳二宮神社　報徳会館**

【伝染性膿痂疹（とびひ）の治療～薬剤の選択から生活指導まで】

講師：神奈川県立こども医療センター　皮膚科部長　馬場直子先生

座長：日下部医院　　日下部　芳志先生

共催：大塚製薬株式会社

いずれも、内科、小児科の先生のご参加があり、ご質問も数々いただき、有意義な会となりました。

小田原市の会員は皆、息災でございます。片倉先生は腰痛のため静養中（医院はお嬢様の根岸晶先生がなさっています）でしたが、間もなく外来へ復帰予定です。

市立病院との病診連携も、非常にスムーズで、水野尚部長に感謝いたします。　（文責：大林寛人）

○ ○ ○ ○ ○
**地域医会だより**

# 茅ヶ崎医師会皮膚科部会

## 症例検討会

日時：平成21年６月23日（火）
場所：茅ヶ崎市立病院　皮膚科外来
講師：茅ヶ崎市立病院
　　　皮膚科部長　掛水夏恵　先生

## 講演会

日時：平成21年10月13日（火）
場所：茅ヶ崎市勤労市民会館３Ｆ　B研修室
演題：「光線過敏症の基礎と臨床～私の経験した症例を中心に～」
講師：前帝京大学市原病院　皮膚科教授
　　　左門町皮膚科　副院長　松尾　聿朗　先生

（文責：小野秀貴）

○ ○ ○ ○ ○
**地域医会だより**

# 平塚市医師会皮膚科部会

第49回例会　テーマ「足のトラブル解決法」～義肢装具士の立場から～

出席者：48名
日　時：2009年１月28日（水）
場　所：レンタルホール湘南平塚
司　会：木花いづみ（平塚市民病院）

**１　挨拶・製品紹介**（19：00 ～ 19：10）
経口抗真菌剤「イトリゾールカプセル50」について　ヤンセンファーマ株式会社
**２　講演**（19：10 ～ 20：10）
講師：小野　嘉昭　先生（東名ブレース株式会社）

【要旨】

●装具の目的＝変形の予防・変形の矯正・病的組織の保護（炎症や障害のある組織を安静・固定し、病勢の進行を止め、治癒を促進する）・失われた機能の代償または補助（弱化した筋力や、構築的に不安定な関節などに対して、それを代償または補助する）

●装具の適応＝装具をつくる目的は何か、装具による利益・不利益は何か、病態や機能障害の程度（変化しつつあるか固定しているのか）、装具を使いこなせるかどうか、経済的に装具の代金を支払えるか

●装具の選択＝静的もしくは動的装具、使用期間、屋内もしくは屋外での使用

●靴選びのチェックポイント：①足が浮腫む夕方に、足の長さ・幅・高さ・周径を計測してもらう、②靴の長さは、履いてみてつま先を曲げずに先端まで入れたとき、踵の後ろに小指が入る程度がよい、③趾が入る部分（toe box）が高く、中で趾が自由に動かせる、④靴の幅は、母趾と小趾のMTP関節間でぴったりとする幅がよい、⑤母趾のMTP関節が靴の内側の最も広い位置に一致する、⑥アーチサポートの位置は舟状骨に合っている、⑦腰革の高さは外果下端より１cm下、後縁は同じ高さ、⑧月型（踵の横の革）が踵をしっかり保持している、⑨踏み返しでMTP関節レベルの甲革に横しわが寄る、⑩踵と土踏まずの間で曲がらない靴底の硬さがある、⑪できれば調節できる靴紐で、ヒールは２～３cm、先端は内側に寄っている、⑫必ず両側を履いて５分以上歩いてみる

**３　症例供覧**（20：10～20：30）

林　裕嘉（平塚市民病院）、福永有希（平塚共済病院）

**４　懇親会**（20：30～21：30）

共催：平塚市医師会皮膚科部会、ヤンセンファーマ株式会社

## 第50回例会　テーマ「顔の紅斑」

出席者：56名
日　時：2009年５月27日（水）
場　所：ホテルサンライフガーデン
司　会：高橋昇司（たかはし皮膚科）

**１　製品紹介**（19：00～19：10）

「ドボネックス軟膏について」　鳥居薬品株式会社

**２　平成21年度総会**（19：10～19：15）

**３　講演**（19：10～20：10）

座長：小澤　明　先生（東海大学医学部専門診療学系皮膚科学教授）

講師：西山　茂夫　先生（北里大学名誉教授）

【要旨】

●顔にみられる赤い斑では、炎症による紅斑のほか、真皮上層毛細血管の持続的な拡張、真皮または皮下組織内の出血を表す紫斑などを考える。紅斑は炎症の性質によって丘疹性紅斑、滲出性紅斑、環状紅斑、じんま疹様紅斑など特殊なものがある。

●皮疹には発症から現在まで種々の経過を経た個疹が存在しており、個疹の性質によって病変を病理学的に把握する。滲出性紅斑は滲出性炎症の強い、水っぽく盛り上がったもので、アレルギー性の発生機転が考えられる。環状紅斑は辺縁の赤みが強く、輪ないし環状を呈するもので、滲出傾向のない、リンパ球の増殖を主体とする炎症を示す。また辺縁の痛みを伴えば好中球の浸潤が考えられる。その他、皮疹

の分布により日光の影響を考えたり、潮紅に青みを帯びていればムチンの沈着を考えるなど、注意深く視て判断することが必要である。

**４　懇親会**（20：30 ～ 21：30）

共催：平塚市医師会皮膚科部会、鳥居薬品株式会社

## 第51回例会　テーマ「ここまでわかる皮膚エコー」

出席者：37名
日　時：2009年９月30日（水）
場　所：グランドホテル神奈中平塚
司　会：栗原誠一（湘南皮膚科）

**１　製品紹介**（18：45 ～ 19：10）
「ダラシンTゲル1％について」 佐藤製薬株式会社

**２　講演**（19：10 ～ 20：00）
講師：大畑　恵之　先生（稲城市立病院皮膚科部長）

【要旨】

●皮膚科医の日常診療では、真皮までは目視やダーモスコープなどで観察できるが真皮以下を直接観察する事ができない。時代の潮勢から診療情報の客観化は必要であり、加療前に画像診断を施行することが望ましい。皮膚エコーは比較的手軽に施行でき、侵襲もない検査であり、各種皮膚腫瘍、炎症性疾患、血管病変などの診断補助に役立つ。

●今回はエコーの基礎的な理論と操作方法、疾患毎の特徴につき解説した。

●皮膚エコーは、皮膚に認める“腫瘤”を診察する際に、『第二の眼』としての働きをし、特にインフォームドコンセントの際に役立つと思われる。画像が白黒のコントラストによって構成されるため、高速通信に有利で、特にteledermatology（遠隔皮膚科）における重要性は高まると思われる。

**３　デモンストレーション＆質疑応答**（20：00 ～ 20：30）

**４　懇親会**（20：30 ～ 21：30）

共催：平塚市医師会皮膚科部会、佐藤製薬株式会社

## 第52回例会　テーマ「皮膚科の新薬」～どこまで本当？～

出席者：30名
日　時：2010年１月27日（水）
場　所：レンタルホール湘南平塚
司　会：高橋　昇司（たかはし皮膚科）

**１　製品紹介**（18：45 ～ 19：10）
「ダラシンTゲル1％について」 佐藤製薬株式会社

**２　講演**（19：10 ～ 20：00）

講師：日野　治子　先生（関東中央病院皮膚科部長）

【要旨】

●皮膚科領域では、近年新しい薬剤の開発が目覚しい。かつては外用薬の“塗って・貼って”が得意だったが、外用薬のみならず内服薬の上手な用い方も要求されるようになってきている。そこで、比較的新しく参戦してきた薬剤が本当に有効なのか、用いてみた手ごたえはどうか、振り返ってみた。特に日本皮膚科学会の疾患治療ガイドラインに名を連ねるアトピー性皮膚炎に対するネオーラル®、ざそうに対するディフェリンゲル®、尖圭コンジローマに対するベセルナクリーム®、乾癬へのチガソン®など数種について、使用した状況、効果などについて再検討してみたので、実際に診療に携わっておられる皮膚科医の方々と論議してみたい。

**３　デモンストレーション＆質疑応答**（20：00 ～ 20：30）

**４　懇親会**（20：30 ～ 21：30）

共催：平塚市医師会皮膚科部会、佐藤製薬株式会社

○ ○ ○ ○ ○

**地域医会だより**

# 厚木市皮膚科医会

## 平成21年度事業報告

１）第26回皮膚科医会　平成21年５月21日

「乾癬治療の最新の話題」

聖路加病院　皮膚科部長　衛藤　光　先生

２）第27回皮膚科医会　平成21年11月５日

「ガイドラインに基づくアトピー性皮膚炎診療の勘所」

広島大学大学院医歯薬総合研究皮膚科学

教授　　秀　道広　先生

３）医師会主催市民医療フェスティバル

「紫外線と皮膚」という表題にて自動スライド化して参加。

４）厚木愛甲地区専門校医事業参加

講演は今年度はありませんでした。

FAX相談　２件あり、回答。

平成20年度～ 21年度は「アレルギー疾患の学校生活管理指導表」の活用について今後進める。

５）第１回相模川皮膚科カンファレンスに参加

「皮膚科診療の実際」（保険診療あれこれ）という講演を栗原神奈川県皮膚科医会長に講演していただく。

（文責：小幡秀一）

○○○○○

地域医会だより

# 丹沢皮膚の会

現在、活動を休止しています。

（山本　修）

○○○○○

地域医会だより

# 相模原市医師会皮膚泌尿器科医会

## 講演

平成21年5月21日

ホテルセンチュリー相模大野

「爪白癬の鑑別診断と治療戦略」

哲学堂くすのき皮膚科院長　楠　俊雄　先生

イトラコナゾールのジェネリック薬にはその血中濃度が先発品の20％程度しか維持されないものが複数社有る事が解りました。

平成21年9月16日

ホテル・ザ・エルシィ町田

「アトピー性皮膚炎7つの問題点」

東京逓信病院皮膚科部長　江藤　隆史　先生

東京逓信病院近くには○○総連があり、テポ○ンは飛んで来ない事が解りました。

平成21年11月11日

ホテル・ザ・エルシィ町田

「乾癬治療における病診連携について」

昭和大学藤が丘病院皮膚科教授　末木　博彦　先生

外用剤の隔日使用や生物製剤はネダンが高い事が解りました。

平成22年2月17日

ホテルセンチュリー相模大野

「ディフェリンゲルの使用経験について」

大木皮ふ科クリニック院長　大木　和　先生

ザソウ治療のガイドラインを示しても同意してくれない患者さんが比較的多い事実が解りました。

## 北里大学皮膚科学教室主催勉強会への参加

北里皮膚科フォーラムや神奈川臨床皮膚病理組織検討会などに参加させて頂きました。

## 組織

相模原市医師会の学術医会に属し、皮膚科或いは泌尿器科を診療する会員の希望者が入会しております（標榜医ではありません）。会員数は現在21名です。

## 紹介

平成22年４月より政令指定都市になりました（神奈川県では横浜、川崎に次いで３番目です）。

旧津久井郡と相模原北部を主とした「緑区」、中部の「中央区」、南部の「南区」と３区に分区されます。ゴム印や郵便番号その他直すものが多く、メリットは分かりません。私のクリニックの位置は変わりませんが、住居表示は３回、電話は２回、郵便番号は３回替わりました。

（前会長　大木　記）